

社会連携講座における  
産学連携の実際  
(自身の経験を通して)

機械工学専攻  
高木 周

一例として:

コマツ（株式会社 小松製作所）の場合

- 2007年より社会連携講座を開始  
（最初は5テーマ）
- 2017年現在，第4期まで継続的に実施  
（**2017年度は，18テーマ**を実施）
- **参加教員数**も当初は5名，**現在は15名**  
（私（高木）は，2012年より参加，これまで計4テーマ（現在2テーマ）に関わっている．）

# 社会連携講座を通して感じたこと

通常の共同研究としてのメリットに加え，以下の点も重要．  
企業側にとって，

- 複数のテーマが立ち上がることにより，サステイナブルに大学との連携関係を維持できる．
- 大学教員と企業側の若手研究者が直にやりとりをすることにより，人材育成への貢献も期待できる．

大学側にとって，

- 大勢の教員が参加することにより，お互いの研究について知る良い機会．また，教員どうしの共同研究を開始する良い機会にもなる．
- 異なる研究室に属する学生たちが，定期的に他の研究室の学生や教員の研究報告を聴くことにより，大きな教育効果，研究への影響がある．